

1 横前地区から望む中央アルプス



中央アルプスの山並みに赤々と実るひんごが映える色鮮やかな景色。横前地区では昭和56(1981)年からりんごの植付けが行われ、大規模なりんご園地が広がる。

23 横前グラウンドから望む南アルプス



昭和58(1983)年に整備された横前地区のグラウンドから見る山々の眺望が美しい。アルプスに囲まれたグラウンドで地域住民がスポーツを楽しむ憩いの場所。周辺には桜が植えられ、春には南アルプスとのコントラストが美しい。

22 針ヶ平から望む中央アルプス



中央アルプスの山並みが眼前に迫る風景。まっすぐに延びた村道針ヶ平七久保線沿いに整然と電柱が並び無機質な風景とダイナミックで存在感のある山並みのコントラストが美しい。

21 お試しシェアオフィスから望む南アルプス



村に寄附された上前沢地区の農家住宅を改修し、平成30(2018)年3月に完成したお試しシェアオフィスから見る南アルプスの眺望。四季折々の景色を眺めながら、リラックスして仕事ができる空間。

20 伊那田島の桜並木



閑静な駅舎の周辺に植えられた寒緋桜の並木と中央アルプスのコントラストが絶景。伊那田島駅は大正9(1920)年11月に開業。一時乗車券が販売されたことがあったが、現在は無人駅となっている。

19 熊野社



保谷沢川沿いの田園風景と、熊野社の行末が伝統と風情を感じさせる景色。毎年春秋に行われる例祭では、昭和54(1979)年に「南田島おはやし保存会」が再興した獅子舞が奉納される。

2 竹ノ上地区中平から望む中川村



牧ヶ原橋や蛇行する天竜川、東西小学校など片桐・南向両地区が一望できる風景。東西の街並みが牧ヶ原橋でつながる景色や統合中学校の校舎が村発足60周年の歴史を感じさせる。

24 鵜の淵



坂戸橋から南流する天竜川が流路を西に向ける淵。舟運が盛んだった頃、流れが急変する淵は通行の難所であった。白い砂浜と天竜川のせせらぎに心癒やされる場所。

3 小平地区白鷺原からの眺望



中川村北部の小平地区から南方に見下ろす美しい眺望。粟生沢川沿いに連なる農地には稲が作付けされ、広大な自然の中に人々の営みを感じるのどかな風景。

4 坂戸橋と坂戸峡



昭和8(1933)年にしゅん工された南向村と片桐村を結ぶ村内初の永久橋。平成22(2010)年に文化庁の有形文化財に登録された。春には橋の向岸に植えられた桜がトンネルを形作る。

5 北組地区荻平地籍



「河岸段丘に息づく味覚の里づくり」のため、平成8(1996)年頃に基盤整備された水田地帯。西は中央アルプスの群峰、南は伊那谷の遠望が広がる。山々に囲まれた田園風景は風光明媚。

6 飯沼の棚田



階段状に耕した田んぼと中央アルプスの調和が美しい景色。平成16(2004)年から荒廃防止と景観保全を目的に酒米「美山錦」の栽培が行われ、米澤酒造(株)が地酒「今錦おたまじゃくし」として商品化している。

7 折草峠



今は全戸が移住した四徳地区の人たちが必ず通った懐かしい峠。中川村と駒ヶ根市を結ぶこの峠の南側には折草峠の由来が刻まれた石碑と漂泊の俳人井上井月の歌碑が立ち並び、歴史を感じさせる。

8 陣馬形登山道のベンチ



陣馬形山登山途中で息がつけれる休憩スポット。整備された木々の美しさで木漏れ日に心落ちつく景色。眼下に見下ろす伊那谷の眺望は山頂に負けず壮観。

9 西丸尾のしだれ桜



美里地区西丸尾に咲く、樹齢450年を越す古桜。樹木内部は空洞になっているものの樹勢は非常に盛ん。春は満開の桜をレンゲツツジや椿が彩り、桜の名所として全国に知られる。

10 茅葺の古民家



日本の山村の原風景ともいえる茅葺の家の佇まいが郷愁を感じさせる景色。春は満開の桜、秋は紅葉で色づいた木々が古民家を彩る。背後にそびえる雄大な中央アルプスとのコントラストが美しい。

11 望湖偲故郷の石碑から望む小渋湖



三六災害後、小渋ダムの建設に伴い桑原地区から移住した89人の名が刻まれる記念碑から望む小渋湖。湖底に沈んだ故郷に想いを馳せながら眺める小渋湖の景観が郷愁を誘う。紅葉の詩季は木々が鮮やかに色づく。

12 柳沢地区から望む中央アルプス



一面に広がる野菜畑を眺めながら速く望む中央アルプスと伊那谷の景色。農業が主要産業である中川村を象徴する風景。



18 天竜川から望む中央アルプス



天竜川のせせらぎを感じながら中央アルプスを望むのどかな風景。周辺を流れる南沢川には「南田島ホテルの里の保存会」によりホテルの生息環境が整備され、初夏には背間の中をホテルが飛び交う。

17 天竜橋から望む中央アルプス



天竜橋は、昭和63(1988)年に建設された永久橋。親柱や照明灯には村名産のりんごが配られ、りんご橋の通称でも親しまれる。雪解けの時期には、橋上から望む新緑のニセアカシアと南向ヶ丘の残雪が美しい。

16 渡場のイチョウ並木



昭和58(1983)年に「渡場いこいの広場」により、渡場地区の特産品化を目的に植えられたイチョウ並木。秋には大勢の見物客で賑わい、銀杏拾いも行われる。白亜の南向発電所とのコントラストも美しい。

15 水燃えて火となる



南向発電所を建設した日本の電力王・福沢桃介翁揮毫の碑文。「電気を起こし、産業を興隆し、国を豊かにして、国民の文化を高める」という福沢翁の電気事業に対する熱い決意が刻まれている。

13 葛北地区天白原から望む西山



標高2,194mの烏帽子ヶ岳の奥に標高2,613mの越百山がそびえる雄大な西山の景色。四季折々の移ろいを見せる美しい田畑とのコントラストは絶景。

14 葛北地区天白原から望む東山



西山から振り返れば遠く大鹿村、豊丘村の山々を見渡すことができる。中川村の日々の暮らしに根付く、2つのアルプスに囲まれた穏やかな風景。